

生涯**楽**習  
だより

第88号 &lt;夏号&gt;

2024年7月1日 発行

\* 第88号のテーマ \*

続けよう・広げよう  
新しい試み

P.1

府中市生涯学習センター

館長 岩崎研志さんに聞く

P.3

「学びを楽しむ・学びを支える」&lt;18&gt;

ポッチャの新展開を探る 石田さん

P.2

「悠学の会」20周年記念講演のまとめ

講演者/市職員 英 太郎さん

P.4

「ふちゅう東西南北」市境を越えて

稲城市の学びのポイントを巡る

## 特別企画 新館長はこんな人

府中市生涯学習センター館長  
岩崎研志さんに聞く

## —簡単に自己紹介をお願いします

国立市生まれの国立育ちです。年齢は56歳。子供のころからスポーツ好きで、小学校時代はサッカー、中学時代は卓球、大学では登山と常に行動的に過ごしていました。就職したスポーツメーカーで役職定年になり、そのまま勤務を継続するか考えているときに異動の話がありました。隣の市に住んでいたこともあり、自然豊かで住みやすい府中市は好きな街でしたので、今年の4月、喜んで赴任することにしました。

## —館長になって感じたことは

府中市のみなさんは「いろいろなことを勉強するんだな」というのが第一印象でした。生涯学習センターには多様な講座が設けられており、学習者の多さにも驚きました。自分自身もこれまで接したことのない学びに興味があるし、大きな刺激を受けることになるかも知れないと感じています。

## —館長として心がけていることは？

市民の皆さんに事故が無いよう利用していただく事と、学習センター全体が適正に運営されるよう努めています。それが館長としての大切な仕事だと思います。

そんなこともあり、週に一度は午前6時に出勤して、開錠しながら施設の見回りもしています。そうするこ

とで、スタッフの苦勞の一端もわかってきます。日常の不平・不満・悩みごとなどは、すべて人間関係に起因すると思うので、良いコミュニケーションを心掛けていきたいと思っています。

来館者との直接的な対話も重要です。時には耳が痛いと思う場合もありますが、それはみなさんが私たちの姿を見てくださっているという意味で有難いし、良き理解者になっていただけたと思っています。

## —生涯学習センターとして目指す方向は？

誰でも気楽に参加できる講座、受講者同士が交流できるような場づくりを目指します。わたし自身も未知のことには興味があるので、講座の内容や受講者のことを理解できるように努めたいと思います。

市民が受講目的で参加することは素晴らしいですが、受講生同士が交流を深める機会があればもっと楽しい場になると思います。

今はコロナによる制約がなくなったので、館内での交流を増やしていきたい。例えば、スポーツの講座で誰もが気軽に参加できる、健常者も障がい者もともに参加できるような、分野を問わない幅広いスポーツ講座などが実現できればと考えています。

## &lt;インタビューを終えて&gt;

若い頃からスポーツマンとのことで、管理者然という雰囲気を感じさせない如何にも行動派という印象の方。終始穏やかな笑顔で接する姿勢には、親しみ易さを感じました。馴染みのある府中市で市民との交流を深め、未知のことに取り組んでみたいとの言葉には、自ら先頭に立つ雰囲気も感じられました。今後の運営に大いに期待したいと思います。(取材・文:小林清次郎)